

平成27年12月の大阪森林便り

アフリカ産の丸太輸入増加 アジア伐採制限で

アフリカ産丸太の輸入が増えています。1～9月の輸入量は前年同期と比べて33.1%増え、2014年通年の輸入量を超えました。

アジア地域で環境保護のために丸太の伐採制限が強化され、日本向け輸出量が減少しています。アフリカでは、中央アフリカ共和国や赤道ギニア共和国が主産地。

(2015年11月5日 日本経済新聞記事から抜粋)

針葉樹合板の減産緩和 住宅用出荷増える

国産針葉樹合板の大手メーカーが減産を緩和。住宅メーカー向けの出荷が増えているため。9月の出荷量は前年同月と比べて5%多くなっています。

厚さ12mm以上の主力品では不足感が出始めています。

9月末の在庫量は前年同月比33%減。7月の安値と比べ1割程度高くなっています。

(2015年11月12日 日本経済新聞記事から抜粋)

北米産丸太 11月横ばい 対日価格

北米産丸太の対日輸出価格は、11月積みが横ばいとなりました。丸太買い付けで日本と競合する中国は景気減速感が強まり、丸太需要が減ってきています。

(2015年11月19日 日本経済新聞記事から抜粋)

森林環境税を創設へ 温暖化に活用、政府・与党調整

政府・与党は、温暖化対策として森林の整備を進めるため、新たな税を創設する方向で調整に入りました。導入時期や金額は今後の検討課題。森林整備のための税は、全国で35県が独自に導入しています。国税はこれと並んで徴収することになります。

(2015年11月28日 朝日新聞記事から抜粋)



木材輸出、30年ぶり高水準

1～10月186億円、昨年上回る

木材の輸出額が30年ぶりの高水準に達しています。2015年1～10月は約186億円と、2014年通年を上回りました。

国内では戦後の植林材が伐採期を迎え、蓄積量が大幅に増加。木材各社が円安・ドル高をてこに、中国などアジア市場の開拓を進めています。

2015年1～10月の輸出額は、2012年と比べると2倍の水準です。

合板も10月の輸出額は23億円と、前年同期と比べて2.2倍に増えました。

伐採可能な丸太量を示す森林蓄積量は、2015年には50億m³程度になっている模様。30年前に比べると2倍程度に増えました。

ただ、丸太の伸びは減速。10月を前年同月と比べるとほぼ横ばいです。

(2015年11月28日 日本経済新聞記事から抜粋)



田畑や森あらずシカ なぜ増えたの？

保護や温暖化で住みやすくなったんだ

シカは草や木の皮、笹など色々な植物を食べます。木の下に生える草を食べ、それがなくなると別のえさ場を探します。草を食べつくすと木の皮を食べます。

シカが農作物や植林したスギなどの木を食べる問題は各地で深刻になっています。

シカは北海道から沖縄まで国土の半分以上にいます。全国に300万頭ほどいて、25年前のほぼ10倍。

第2次世界大戦の後に絶滅しかけました。そこでメスを狩ることは禁止、オスも1日1頭までに制限しました。数が回復してきた1980年代後半から、シカの被害が目立ってきました。2007年には全国で解禁。今は1年に50万頭近くが銃などで捕獲されています。ですが、増えるペースが上回って減りません。

猟師が高齢化などで減っています。1970年ごろには全国で50万人いましたが、今は20万人を切っています。

また、地球温暖化で雪が減ったので、冬を越せるようになり、特にメスや小鹿が生き延びるようになりました。

(2015年11月28日 日本経済新聞記事から抜粋)